アサヒの森の取組みご紹介

2024年

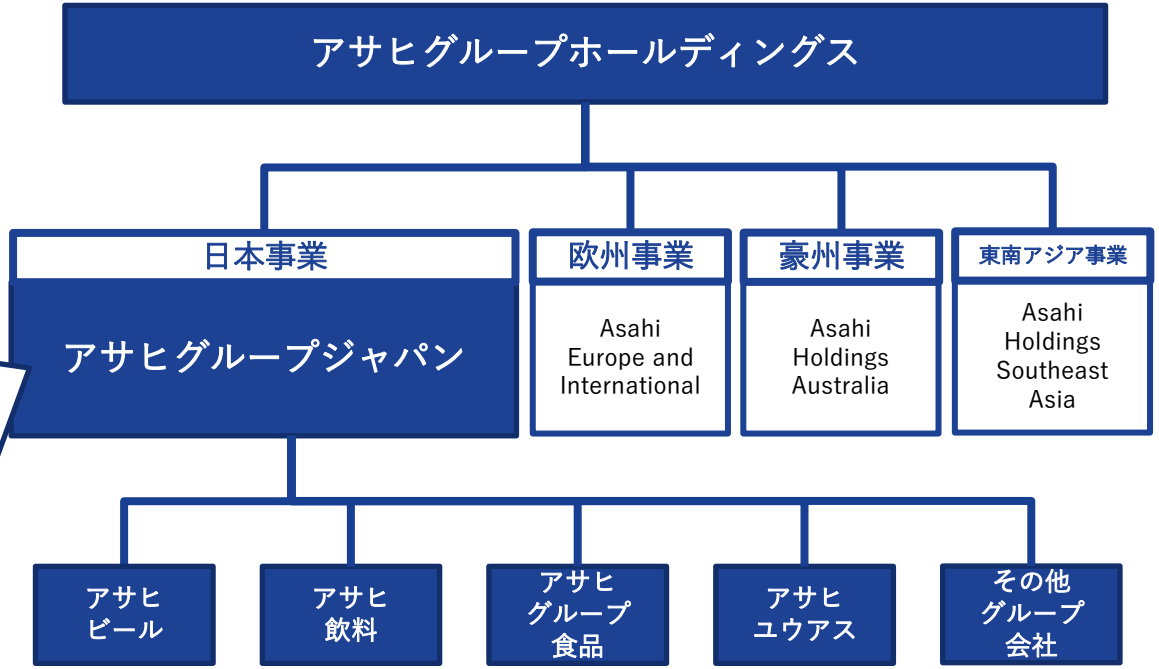
アサヒグループジャパン

自己紹介

アサヒグループジャパン株式会社
事業企画部　主任

和田　紘尚
わだ　ひろひさ

・2018年 アサヒ飲料入社
・2022年 アサヒグループジャパン出向
・「地域環境」「食」「災害支援」を中心としたコミュニティ担当
・2024年よりアサヒの森を担当



ⒸASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

目次

■ アサヒグループと5つのマテリアリティ

■ アサヒの森の概要

■ 2030年に向けたアサヒの森
「守る」取組み
「活かす」取組み
「共創する」取組み

■ 最後に

ⒸASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

アサヒグループと5つのマテリアリティ

アサヒグループホールディングス 会社概要

◆ 商　号　　アサヒグループホールディングス株式会社

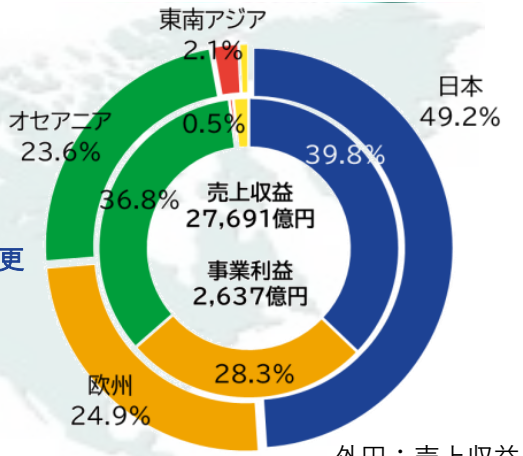
◆ 設　立　　昭和24年（1949年）9月1日

※2011年7月に純粋持株会社化に伴い、「アサヒビール株式会社」より商号変更

◆ グループ従業員数　28,724名（連結）

◆ グループ会社数　　連結子会社:199社　持分法適用関連会社:32社

2023年売上収益・事業利益（セグメント別）



外円：売上収益
内円：事業利益

日本

欧州

オセアニア

東南アジア

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

国内事業の主要商品

酒類事業（ビール類）

飲料事業

その他酒類、ノンアルコール

食品事業

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

マテリアリティと重点テーマ

- グループの経営課題として取り組む領域をマテリアリティとして設定
- 経営資源を集中して取り組む重点テーマには全てグローバルKPIを設定

５つのマテリアリティ	関連するSDGs	重点５テーマと主な目標
環境：気候変動への対応／持続可能な容器包装／持続可能な農産物原料／持続可能な水資源	2, 6, 7, 12, 13, 14	気候変動への対応 **Asahi Carbon Zero** ・2040年までにScope1,2,3においてCO_2排出量”ネットゼロ”を達成する ・2030年までにScope1,2で70％削減、Scope3で30％削減を目指す（いずれも2019年比）
環境：持続可能な容器包装	2, 11, 17	持続可能な容器包装 **3R+Innovation** ・2025年までにプラスチック容器を100%有効利用可能な素材とする ・2030年までにPETボトルを100%リサイクル材、バイオ由来の素材等に切り替える ・プラスチックに替わる持続可能な新素材の開発・プラスチック容器包装を利用しない販売方法を推進する
コミュニティ：人と人とのつながりの創出による持続可能なコミュニティの実現	3	人と人とのつながりの創出による持続可能なコミュニティの実現 **RE:CONNECTION** ・基本活動「コミュニティ支援活動」において、グローバル施策「RE:CONNECTION for the EARTH」を実施し、全RHQが参画する
責任ある飲酒：不適切飲酒の撲滅／新たな飲用機会の創出によるアルコール関連問題の解決	3	不適切飲酒の撲滅／新たな飲用機会の創出によるアルコール関連問題の解決 **Responsible Drinking Ambassador** ・2030年までに主要な酒類商品※に占めるノンアルコール飲料・低アルコール飲料の販売構成比20%以上を達成する　※ビール類、RTD、ノンアルコール飲料
健康：健康価値の創造	3	
人権：人権の尊重	5, 8, 10	

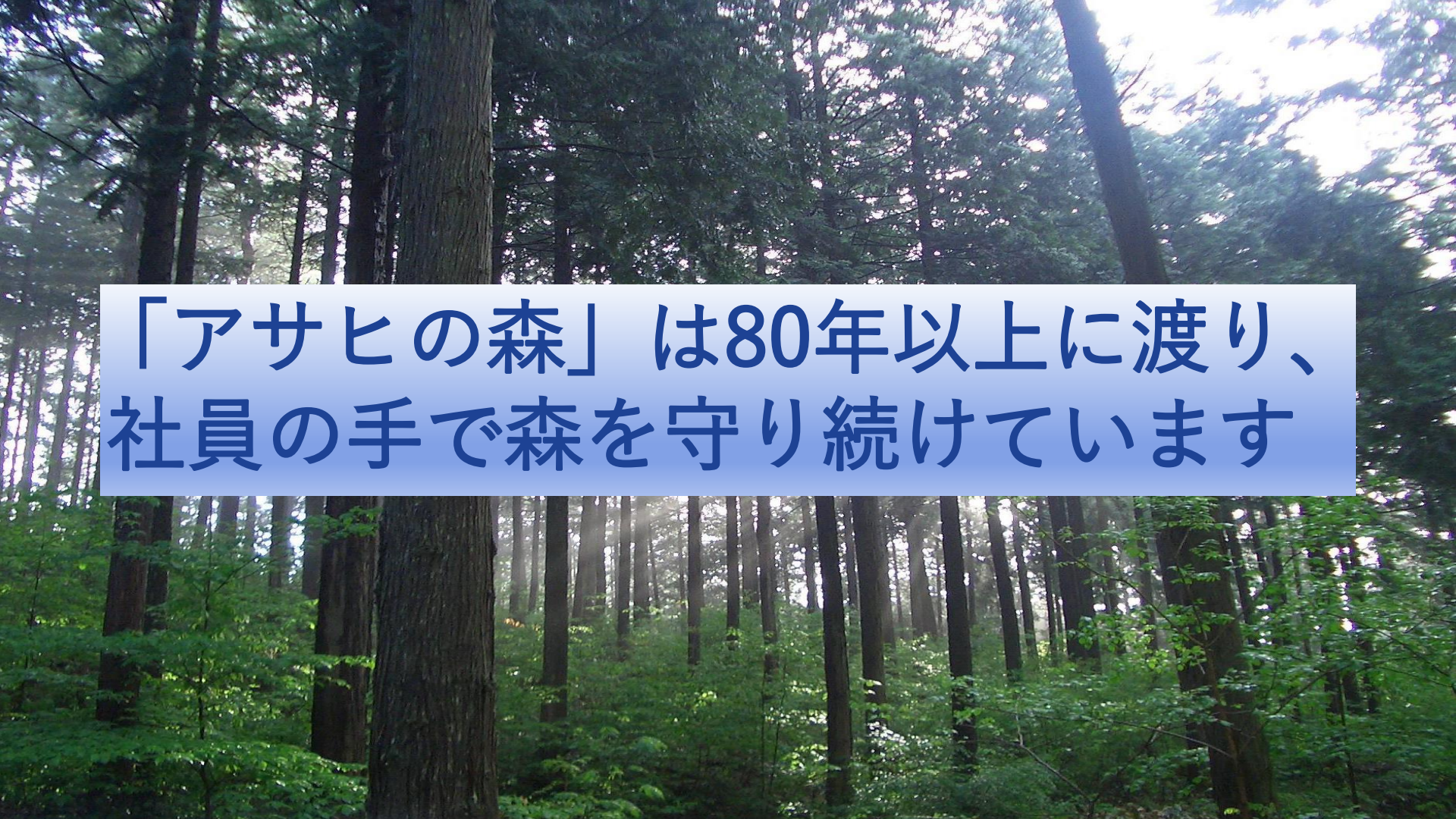
©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

アサヒの森の概要

アサヒの森　movie

出展：アサヒの森 movie（アサヒグループ公式チャンネル）

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.



「アサヒの森」は80年以上に渡り、
社員の手で森を守り続けています

社有林「アサヒの森」

- 1941年大日本麦酒（アサヒビールの前身）が、ビール瓶の王冠の裏地に使用していた輸入のコルク不足に備え、アベマキの樹皮を代用品として確保するため山林を購入

総面積は2,165ヘクタール（東京ドーム461個分に相当）

■広島県庄原市と三次市に点在する15の山

※管理面積は2,467ha

アベマキの樹皮

アサヒグループジャパン（株）
アサヒの森環境保全事務所
所長　松岡 洋一郎

1941年に「アサヒの森」を取得して以来、社員の手で森を守り続けています。きれいな水や空気、自然の恵みを次世代に引き継いでいくことは、自然の恵みを用いて事業活動を行う私たちアサヒグループの責任だと考え、アサヒの森環境保全事務所はこれからも森を守り続けていきます。

アサヒグループ森林管理事務所 所長 松岡 洋一郎

©A

社有林を持つ企業

- 製紙業や建設業など、本業として社有林を持つ企業が多い中、アサヒグループは約2,000haを超える面積を所有している

	企業名	業種	所有面積（ha）	特徴
1	王子製紙	製紙	190,000	社有林の40%が人工林。年間５億円の間伐費用。公的機能評価額5700億円。CO2吸収量115万t-co2
2	日本製紙	製紙	90,000	全国398ヶ所。費用6億円、収入5億円（補助金含む）
3	住友林業	住宅・建築	47,977	川上～川下で事業展開。住宅受注・分譲個数の延床面積の２倍相当の植林活動。
4	三井物産	商社	44,000	人員75名＋地域連携。費用予算4億3千円。JHEP認証
5	東海パルプ	製紙	24,000	民間所有の１団地として最大
6	東京電力	電力	18,000	尾瀬国立公園（７割）＋山林。尾瀬の自然保護活動
7	三菱マテリアル	非金属	14,513	北海道中心。SGEC取得。人工林51%　5.4万t-co2
8	北越紀州製紙	製紙	12,800	分収林1,500ha含む
9	ニッタ	ゴム製品	6,600	明治18年創業。動力伝動用ベルト等の産業資材。CSRでの保有
10	九州電力	電力	4,000	大分県で所有。
11	三菱製紙	製紙	3,400	三菱グループでFSC認証面積は968ha
12	アサヒグループ	飲料・食品	2,165	1941年コルク代用品として森林取得。FSC国内3番目取得。国内初のCO2年間吸収量証明（2008年）
13	トヨタ自動車	自動車	1,630	2007年諸戸林山から取得。里山再生「トヨタの森」や植林。
14	鹿島建設	建設	1,000	廃食油の燃料化で得る二酸化炭素排出枠を使って施工現場から出るCO2を相殺

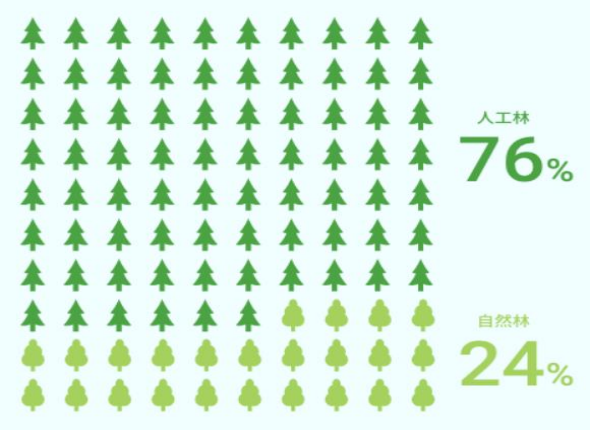
出典：2021年当社調べ

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reser

「アサヒの森」概要

- アサヒの森の人工林比率は76%、水源涵養保安林などに指定されている

■人工林・自然林の比率



■森林の指定区域

水源かん養保安林　　対象：全山
指定団体：広島県
指定時期：1966（昭和41）年~1955（平成7）年にかけて全山で指定

ブナ林自然環境保全地域　　対象：女亀山の一部
指定団体：広島県
指定時期：1987年（昭和62）年3月31日

神之瀬峡県立自然公園　　対象：二分坂山・曲谷山・黒口山の一部
指定団体：広島県
指定時期：1998年（平成10）年4月30日

■山林別情報（2022年1月現在）

山林名	所在地	面積(ha)	人工林面積(ha)	人工林率
下赤松山	三次市作木町	69	31	45%
灰谷山	三次市布野町	80	60	75%
曲谷山	三次市君田町	157	134	85%
黒口山	三次市君田町	56	50	89%
女亀山	三次市布野町	115	71	62%
赤松山	三次市布野町	213	174	82%
二分坂山	三次市君田町	144	73	51%
三次市　計		834	593	71%
戸谷山	庄原市濁川町	337	271	80%
甲野村山	庄原市比和町	408	317	78%
須川山	庄原市川北町	151	137	91%
烏袋山	庄原市口和町	124	111	90%
殿畑山	庄原市口和町	20	14	70%
比和奥山	庄原市比和町	46	38	83%
後原山	庄原市高野町	181	101	56%
法仏山	庄原市比和町	64	59	92%
庄原市　計		1331	1048	79%
合計		2165	1641	76%

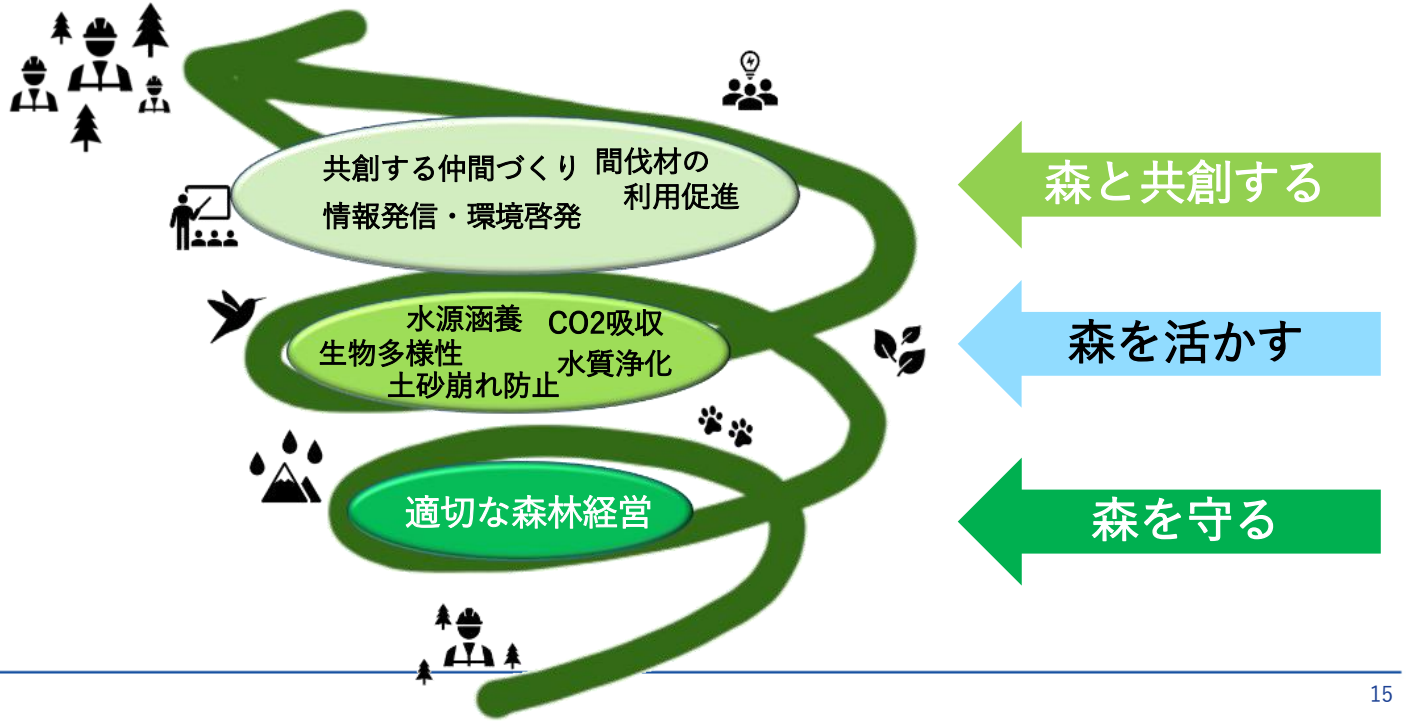
©AS

2030年に向けたアサヒの森

2030年に向けたアサヒの森

- アサヒの森は、アサヒグループの「環境」の代表的取組みのひとつ
- 自然の恵みを享受して事業を行う企業グループだからこそ、日本の森で自然の循環を作り出す

自然がめぐる
日本の森の
持続可能性に
貢献する



ⓒASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

「守る」取組み

守る　責任ある森林管理

- アサヒの森では森林経営計画に基づく計画的な施業を行っている

ⓒASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

※本格的な森林施業が前提のため、15山の殆どは一般の人が気軽に訪れる事を想定しておりません

守る　共創する

間伐材の利用

- アサヒの森で収穫されたヒノキやスギは、地元の原木市場や製材工場に出荷
- 建築資材等に加工され市場に流通
- アサヒグループ内でもアサヒの森の木材を、オフィスの一部の内装木質化などに活用

「アサヒの森　甲野村山
フォレストハウス」

木札や絵馬などの販促物

出荷される木材

アサヒグループシェアオフィスのパーテーションやカフェテリアの天板など

国立競技場　提供：大成建設株式会社

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

守る

アサヒの森の沿革

- 責任ある森林管理の国際認証「FSC®認証」を2001年取得、その後も各種認定や顕彰を受賞

1941年	アベマキが自生する広島県の山林を購入。
1949年	朝日麦酒（株）庄原林り業所開設
1960年	ヒノキ、スギの植林を本格的に開始
1970年	ヒノキ幼苗・ヒノキポット 苗木育苗開始
1987年	ブナ林自然環境保全地域指定（女亀山の一部）
1993年	戸谷山で会長記念植樹 [1995年より社長記念植樹開始]
1998年	神之瀬峡県立自然公園に指定（二分坂山・曲谷山・黒口山の一部）
2001年	「FSC®FM」認証取得
2005年	CoC認証を追加取得し「FSC FM/CoC認証」
2007年	庄原林業所から「アサヒの森環境保全事務所」に変更
2008年	林野庁近畿中国森林管理局と「美しい森林づくりに関する覚書」を締結
2010年	生物多様性モニタリング調査を2010～2012年で実施
2011年	オフセット※3クレジット（J-VER）を取得 吸収量1.375t-CO2 （間伐促進型プロジェクト）
2014年	第53回全国林業経営推奨行事において林野庁長官賞受賞
	アサヒの森 生物多様性の保全基本方針策定
2016年	第5回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて農林水産大臣賞受賞
2019年	広島県の「意欲と能力のある林業経営者」として登録
2020年	庄原市比和財産区との財産区有林管理に係る契約の締結
2021年	戸ノ丸国有林における分収造林植林完了
	「文化庁ふるさと文化財の森」登録
2022年	第１回「森林×脱炭素チャレンジ2022」においてグランプリ受賞
2023年	アサヒの森 甲野村山が 環境省「自然共生サイト」に認定

FSC（Forest Stewardship Council®＊ 森林管理協議会）
「FSC®認証」2001年取得 ※日本で3番目の取得
CoC認証取得 2005年取得

FSC
www.fsc.org
FSC® C004188
責任ある森林管理のマーク

環境省 **オフセット・クレジット制度J-VER**
（Japan Verified Emission Reduction）2011年取得

第53回全国林業経営遂行行事・林野庁長官賞 2014年受賞

第5回**いきものにぎわい企業活動コンテスト** 農林水産大臣賞 2016年受賞

広島県「**意欲ある林業経営者**」 2019年登録

文化庁「**ふるさと文化財の森**」 2021年登録 **※食品メーカーで初**

第１回「森林×脱炭素チャレンジ2022」においてグランプリ受賞
（2022年）
アサヒの森 甲野村山が 環境省「自然共生サイト」に認定
（2023年）

守る　生物多様性レポート

- 生物多様性レポートにおいて、アサヒの森は生物多様性が非常に豊かな状態と評価されている
- この結果を受けて、アクションプランを策定し、生物多様性に関する活動を継続的に行っている

生物多様性レポート　有識者の意見
「間伐など人工林における施業が適切に行われてきた結果、多様な鳥類が　生息しているのだろう」

山岸 哲 先生
大阪市立大学名誉教授、兵庫県立コウノトリの郷公園名誉園長、山階鳥類研究所元所長、 新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター元センター長

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

「活かす」取組み

活かす

森の多面的機能による価値

- 森林には多面的な機能価値がある
- 防災機能（36兆円）水源涵養（29兆円）レクレーション（2兆円）、CO2固定（1兆円）

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

出典：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連付属資料（平成13（2001）年11月）
注：金額は一部の機能の貨幣評価額

活かす

アサヒの森の自然資本定量化

- アサヒの森は、森を適切に管理することで自然の恵みを育み、自然資本として定量化している

■自然資本としての価値の定量化の例

自然資本としての価値の定量化の例（外部の専門家による評価）

原則として、生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書※に準拠して評価しています。

※『生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書』（環境省、2016）

潜熱効果

物理量：997万m^3(蒸散)
備考：100km^2の範囲を2°C低下させる

CO_2吸収

物理量：12,200トン
備考：工場排出の6.2%

大気浄化

物理量：SO_2 184kg
NO_2 992kg
備考：工場排出の4.3%
工場排出の1.0%

水質浄化

物理量：窒素 69トン
リン1.0トン

土壌流出防止

物理量：9.2万トン

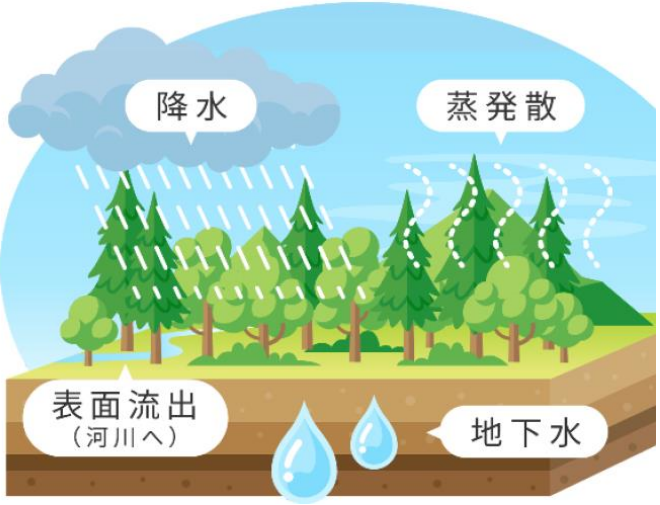
©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

活かす

持続可能な水資源への貢献

- 国内のビール工場での水使用量の削減を進めるとともに、「アサヒの森」の管理面積を拡大※し、持続可能な森林経営を行うことで、 AB社ビール工場で使用する水と同量の水を、「アサヒの森」における水涵養（森が水を育み蓄える能力）量でまかなっている

■水涵養の仕組み



2021年の国内ビール工場の水使用量は「約963万m³／年」となり、100%以上の水使用量相当を「アサヒの森」で地球に還元

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

活かす

森林×脱炭素チャレンジ2022　グランプリ受賞

- 林野庁が主催する「森林×脱炭素チャレンジ2022」においてグランプリ「農林水産大臣賞」を受賞

【概要】
林野庁が2022年に新たに創設した表彰制度
森林整備活動を通じて、脱炭素社会の実現に貢献している企業や団体を顕彰するもの

【評価ポイント】
■令和２年および令和３年に約190haの間伐等に取組み、当該森林におけるCO_2吸収量は年間816tとなり、脱炭素に貢献していること。
■当該森林において森林資源の循環利用や公益的機能の発揮に資する幅広い取り組みが行われていること。

GREEN PARTNER 2022 JAPAN TM

林野庁が認証したグリーンパートナー2022マーク

ⓒASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

活かす

アサヒの森(甲野村山)自然共生サイトに認定

- 「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が認定する区域のこと。
- 2023年10月にアサヒの森(甲野村山)が自然共生サイトとして正式認定。

■森の外観

■林内景観

アサヒの森 甲野村山の生物多様性の価値概要

■主にスギ・ヒノキ植林地、自然林（コナラ林）から成る森林。隣接して水田が存在し、里山的景観を形成

■多様な環境に希少種を含む多くの在来種が生育・生息。スギ・ヒノキ植林地は列状間伐等の管理の実施により下層植生が発達し、森林環境が健全に保たれている

【生態系サービス】木材供給（供給サービス）、水源涵養、温室効果ガスの吸収（調整サービス）、環境教育（文化的サービス）

■調査で植物274種、鳥類40種が確認。希少種のサシバ、ヤマドリ、ブッポウソウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ（鳥類）、ゴギ （魚類）、オオサンショウウオ（両生類）などの生息を確認。

■サシバ（甲野村山：2010/5/18）

■10月6日の正式認定同日に社外リリース

プレスルーム ＞ 2023年10月06日

「アサヒの森」が環境省の「自然共生サイト」に認定

「生物多様性のための30by30アライアンス」における目標達成への貢献を目指す

2023年10月6日
アサヒグループジャパン株式会社

アサヒグループジャパン株式会社(本社 東京、社長 濱田賢司)が所有するアサヒグループの社有林「アサヒの森」の一部である「甲野村山」(広島県庄原市)が、10月6日に環境省の令和5年度「自然共生サイト」に認定されました。

■環境省HP

広島

2023年前期

アサヒの森 甲野村山

【場所・面積】庄原市、408ha

【申請者】 アサヒグループホールディングス(株)

詳細はこちら [PDF: 411KB]

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

「共創する」取組み

共創する

学びの場の実施／地域との関わり

- 広島県庄原市と連携し、林業への関心持つきっかけとなる森林活動体験を実施
- 地元の小学生を対象とした、自然の中で森の役割や人の暮らしとの関わりを体験できる活動

■広島県庄原市との環境プログラム（2021年）

自然観察	林業体験
	庄原市の生徒が切り取った間伐材の円板

対象	● 小学生
メニュー名	● アサヒの森散策
場所	● 座学：森林体験交流施設　● 活動：アサヒの森
ねらい	● 森、水、虫などを観察し関係性を学ぶことで、森林の理解を深める
アサヒの森での実施内容	● 自然観察　● 林業の説明、林業地の観察　● 林業体験：のこぎりによる間伐材の丸太切り、なたによる薪割り

■過去の環境プログラム

ⓒASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

共創する

広島市立大学との共創ゼミ

- 2022年から広島市立大学との共創ゼミを開設
- 森林の循環に関する役割や働きを理解し、広島市立大学の学生が若いアイデア・視点を活かし、より多くの生活者が森林の循環について学べるデジタルコンテンツを制作

共創ゼミ概要

対象　：広島市立大学の学生

形式　：ゲストスピーカーによる講義やアサヒの森での森林体験等

目的　：森林課題に関心を持つ人を増やし、森の恵みを次世代に繋ぐ仲間を増やす

2023年ゴール：子どもが理解できる森林教材ツールの制作
（アイデア・アニメーション・デモ制作）

©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

共創する

有識者による意見交換会

- 生物多様性の有識者の方々からの多面的に意見を頂きアクションプランに反映している

■有識者による「意見交換会」

＜生物多様性に関する有識者＞

・香坂 玲
(東京大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 教授)
・小林　誠
(環境省自然環境局自然環境計画課 課長補佐)
・高川　晋一
(日本自然保護協会ネイチャポジティブタスクフォース 室長)
・深町　加津枝
(京都大学地球環境学堂地球親和技術学廊 准教授)

＊毎年、意見交換会を反映した生物多様性のアクションプランの実行を、いであ社に支援いただいている

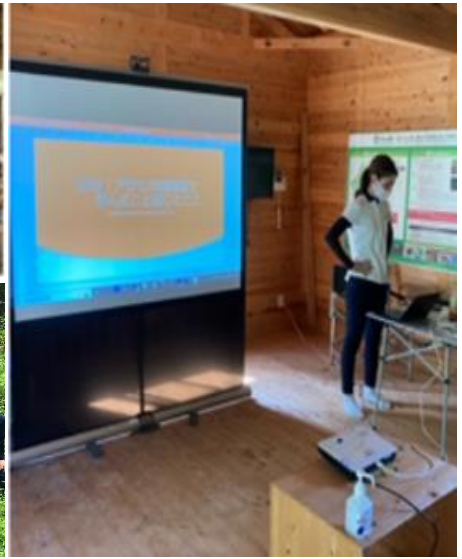
©ASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

共創する

アサヒの森社員研修

- 中四国統括本部の新入社員及び転入社員を中心としたアサヒの森研修をグループ横断で実施
- 2022年、2023年の2年間で延べ100名以上の研修を実施

■2022年アサヒの森研修の様子



(2022年参加人数計：39名)

■2023年アサヒの森研修実施スケジュール

実施日時	人数	内容
5月26日(金)	16名	ローカルSDGｓ専任リーダー研修
5月29日(月)	19名	AGS岡山工場新卒研修
6月7日(水)	5名	AGJ大阪万博チーム研修
7月6日(木)	16名	新入社員研修
9月29日(金)	12名	転入社員研修
10月7日(土)	15名	転入社員研修

■2023年アサヒの森研修の様子

ⒸASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

最後に

・アサヒの森は80年以上の歴史があり、**「FSC®認証」の原則と基準に基づき適切な森林経営**を行っています。

・2022年は地元大学との共創などにより、メディアにも多く取り上げられました。
社長をはじめとするグループ役員の方々や多くの社員がアサヒの森に訪れることにより、社内の認知も高まりつつあります。

・2023年は自然共生サイトの正式認定を取得。国際目標である※「30by30」への貢献を目指しています。

※2030年までに、陸と海の30％以上を保全する国際的な目標

・自然の恵みを享受して事業を行うグループだからこそ、森を通じた地球環境の保全を行うために、グループ全体で全国の森にどのような貢献ができるかが私たちの課題です。
アサヒの森はその活動の起点となれるよう「森を守る」「森を活かす」「森と共創する」取組みを継続していきます。

ⒸASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.

EOF

ⒸASAHI GROUP HOLDINGS. All rights reserved.